

高岡短期大学部

- I 高岡短期大学部の教育目的と特徴・・・15－2

- II 分析項目毎の水準と判断・・・・・・・・・・15－5
 - 分析項目 I 教育の実施体制・・・・・・・・・・15－5

 - 分析項目 II 教育内容・・・・・・・・・・15－11

 - 分析項目 III 教育方法・・・・・・・・・・15－16

 - 分析項目 IV 学業の成果・・・・・・・・・・15－22

 - 分析項目 V 進路・就職の状況・・・・・・・・15－29

- III 質の向上度の判断・・・・・・・・・・15－33

I 高岡短期大学の教育目的と特徴

1 高岡短期大学の概要

(旧)高岡短期大学の開学は、昭和 52 年に富山県知事・県議会議長、高岡市長・市議会議長の連名で大学設立に関する陳情書(資料1-1)が文部省に提出されたことに始まる。

資料1-1 高岡地域大学設立に関する陳情書

富山県高岡地域は、古来より商工業及びそれに関わる文教都市として発達し、第3次全国総合開発計画で企図された定住圏の中核都市として、今後も本県西部地域の発展を担う重要な機能を果たすことを期待しております。

このような観点から、近時新しく開かれた大学として、わが国高等教育において特異な役割を果たすことが期待されている、いわゆるコミュニティ・カレッジを伝統工芸や経営実務など、この地域にふさわしい内容をもって設立するため、52年度において調査を実施のうえ、53年度予算において設立準備費を計上されるようお願いいたします。なお、その内容につきましては、現在県内関係各界を網羅した「高岡地域大学設立協議会」を設置し、検討いたしております。成案を得次第更に御要望申し上げたく存じますので、何卒宜しくお願いいたします。

(出典：高岡短期大学二十年の歩み 第2部)

このようにして昭和 58 年に国立の(旧)高岡短期大学として開学し、昭和 61 年 4 月に第 1 期生を受け入れた。その内容は、伝統的工芸品産業の発展に寄与する工芸技術(金属、漆、木材)、実務的な経理・経営及び情報処理、並びに外国語及び国際問題等の分野における職業に必要な能力を育成することを目的として2つの学科(産業工芸学科、産業情報学科)が置かれた。さらに社会の要請に応える形で3学科と専攻科(3専攻、2年制)に改組し、資料1-2のと通りの学科構成で現在に至っている。

平成 17 年 10 月には、富山県内の3国立大学((旧)高岡短期大学、(旧)富山大学、(旧)富山医科薬科大学)の再編・統合により、(新)富山大学の高岡短期大学部に編入された。

このため、中期目標期間における業務実績は、平成 16 年 4 月から平成 17 年 9 月までは(旧)高岡短期大学、平成 17 年 10 月以降は富山大学高岡短期大学部のものであり、今後は区別せずに「短大部」の教育として記すことにする。

資料1-2 学科構成と学生数

(学生数の現員は、平成19年5月1日現在の1年生と2年生の合計)

	学生定員/学年	現員	備考
学 科	産業造形学科	50名	1名 (平成18年度以降 学生募集停止)
	産業デザイン学科	25名	0名 (同上)
	地域ビジネス学科	125名	2名 (同上)
	計	200名	3名
専攻科	産業造形専攻	14名	47名
	産業デザイン専攻	5名	17名
	地域ビジネス専攻	6名	10名
	計	25名	74名
合 計	225名	77名	(出典：平成19年度 学校基本調査)

2 教育目標

本短大部は、中期目標の「大学の基本的な目標」として資料1-3に示す基本理念を掲げている。この教育理念を達成するための「教育の成果に関する目標」として資料1-4に示す教育目標を定めている。

資料1-3 基本理念

高岡短期大学は、地域の多様な要請に積極的にこたえ、広く社会に対して開かれた特色ある短期大学として設置された。

このことを踏まえ、高岡短期大学は、教育を重視し、実践的、経験的な熟練教育を実施するとともに、感性豊かな、地域で活躍できる人材の育成を行い、また、地域社会に対し各種知的サービスを提供し、地域の産業・芸術・文化の発展や生涯学習の推進に役立つ、地域と共に発展する短期高等教育機関となることを目標とする。

(出典：高岡短期大学 中期目標前文)

資料1-4 教育目標

学 科

多様な分野で専門的知識や技術を身に付けるための教育を行うと同時に、多様な分野を融合した教育サービスを提供し、一定の専門的能力を持ちつつ、同時に、いくつかの分野に対する理解力が高い学生、柔軟性のある学生を育てることを目標とする。

専攻科

学科2年間の基礎の上に、地域社会と密接な関連をもつ専門分野について、更に2年間の教育を行い、精密さと広がりを持つ高度の知識と技術を修得し、我が国とりわけ地域の産業・芸術・文化の発展に積極的に貢献できる人材を育成することを目標とする。

(出典：高岡短期大学 中期目標)

3 特徴

上記の教育目標の基づき、本短大部では以下のような特色ある教育活動を行っている。

①地域の要請に応える学科構成（資料1-5）。

資料1-5 履修コース制（学科）

本短期大学部では、上述した3学科の「工芸」、「デザイン」、「ビジネス」の3つの分野が持つそれぞれの特徴を、専門性を保ちつつ融合させた教育（融合教育）の実施をねらいとしています。そのねらいを具体的なカリキュラムに反映させるために、次の10種類の履修コースによる教育を実施しています。

- ・ 産業造形学科
 - 金属工芸コース、漆工芸コース、木材工芸コース、造形工学コース
- ・ 産業デザイン学科
 - プロダクトデザインコース、ビジュアルデザインコース
- ・ 地域ビジネス学科
 - 経営コース、情報コース、国際・英語コース、国際・中国語コース

(出典：高岡短期大学部 平成18年度学生便覧)

- ②少人数教育を重視し、より実践的な能力・技能の育成をめざす（資料1－6）。

資料1－6 教育上の特徴

- (1) 職業又は實際生活に必要な能力を育成することを目的としており、学問的基盤の上に立って、実践的技術あるいは実務的知識を習得できるように努めています。
- (2) 履修科目を基礎教育科目と専門教育科目の2つの区分に整理し、それぞれの区分に必修科目を設けるほか、自分の履修コース以外の科目も履修できるようにし、特定の専門的技術ばかりでなく、より幅広い分野の技術や知識を身に付けられる教育を行っています。
- (3) コンピュータを使いこなす能力が求められる時代に対応するため、全履修コースにおいて、コンピュータ教育の徹底を図っています。

(出典：高岡短期大学部 平成18年度学生便覧)

- ③地域との密接な連携を推進する。

社会に開かれた大学を特色とする本短大部は、地域住民への支援・協力として、公開講座、公開授業、展示公開、施設開放、特別公開講演会等を、また、産業界との連携協力として、コンサルテーション（技術相談等）、共同研究、受託研究を積極的に推進する。

- ④「学士」の取得を可能にする2年制の専攻科の設置。

【想定する関係者とその期待】

本短大部がある高岡キャンパスは、古来より商工業及びそれに関わる文教都市として発達した富山県西部地域の高岡市内に位置し、産業界の要望から(旧)高岡短期大学が創設された経緯がある(資料1－1)。

この県西部地域の産業界とは、高岡銅器、高岡漆器、井波木彫刻・庄川挽物といった伝統工芸品(金属、漆、木材関連)に代表される工芸・デザイン産業が中心である。また、産業界ばかりではなく地域住民からは、富山県・高岡市との協力・連携を通しての地域活性化や生涯学習への支援を要望されている。一方、広く産業界全般からは、総務分野で活躍できる人材養成の要望は強い。

つまり、本短大部が想定する主な関係者は、次のとおりである。

- ・地域の工芸産業(金属、漆、木材など)
- ・デザイン部門をもつ各企業
- ・行政、地域住民
- ・地域の商工業事業者

さらに、本短大部の3学科、すなわち工芸・デザイン・ビジネスの3分野に興味を持ち、工芸都市「高岡」において、

・実践的技術及び実務的知識を習得しようとする全国の高校生と在学生も重要な関係者である。

これら関係者の教育上の期待は、次のとおりである。

- 工芸産業の発展に寄与する制作技術を習得した人材の輩出
- 豊かな感性をもった企画・設計能力のある人材の輩出
- 実務的な経営・情報処理・外国語などの能力を身につけた人材の輩出
- 地域住民への生涯学習環境の提供

II 分析項目毎の水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点毎の分析

観点 1-1 基本的組織の編成

(観点到に係る状況)

本短大部は、基本理念に基づき、実践的、経験的な熟練教育を実施するとともに、感性豊かな地域で活躍できる人材の育成を目的とする教育を行っている。このために、3学科と専攻科（3専攻制）の教育組織と教員組織を編成している。

専攻科を修了する学生には、独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士と認定されるのに必要な教育を実施している。具体的な学士区分は、産業造形専攻にあつては学士「芸術学」、産業デザイン専攻にあつては学士「芸術工学」、地域ビジネス専攻にあつては学士「経営学」である。

教員は各学科に所属するが、教員の人事管理にあつては、教員の不足など支障がないように定員を設定し、学科の枠を越えて学長の下に一元的な管理を行っていた。平成17年10月の再編・統合後は、併任として平成19年5月1日現在、教授29人、准教授15人、講師9人、助教6人、計59人であり、短期大学設置基準を十分満たし、かつ、独立行政法人大学評価・学位授与機構が定める要件を満たす専攻科として必要な教員が確保されている(資料1-1-1)。なお、より実践的な能力・技能の育成をめざすことから、実務経験を持つ教員を数多く採用している。

資料 1-1-1 教員構成

(単位：人)

高岡短期大学教員

平成16年5月1日現在

平成17年5月1日現在

学科等	学長	副学長	教授	助教授	講師	助手	その他	合計	学長	副学長	教授	助教授	講師	助手	その他	合計
	1	2						3	1	2						3
産業造形学科			11	5	3	4		23			10	5	3	4		22
産業デザイン学科			7	1	1	2		11			7	1	2	2		12
地域ビジネス学科			11	5	3			19			10	6	3			19
その他センター等			1		2			3			1		2			3
計	1	2	30	11	9	6		59	1	2	28	12	10	6		59
非常勤講師							23	23							21	21

※非常勤講師は、当該年度の人数

高岡短期部大学教員

平成18年5月1日現在 (全員併任教員)

平成19年5月1日現在 (全員併任)

学科等	学長	副学長	教授	助教授	講師	助手	その他	合計	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	その他	合計
	1							1	1							1
産業造形学科			11	7	2	2		22			10	8	2	4		24
産業デザイン学科			10	2	3	1		16			10	2	3	1		16
地域ビジネス学科			9	6	3			18			9	5	3			17
その他センター等					1			1					1			1
計	1		30	15	9	3		58	1		29	15	9	5		59
非常勤講師							14	14							8	8

※非常勤講師は、当該年度の人数

(出典：総務管理課総務係にて調査)

観点 1-2 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

短大部では、教育内容及び教育方法の改善に向け FD (ファカルティ・ディベロップメント) 研修会を開催している。平成 16 年度の FD 研修会は、資料 1-2-1 のとおりである。なお、平成 17 年度は大学の再編・統合の年度にあたり未実施であったが、平成 18 年度以降は芸術文化学部として実施している。

資料 1-2-1 FD 研修会の実績 (平成 16 年度)

開催日：平成 17 年 3 月 3 日

テーマ名：横浜国立大学の FD のあり方

講師：横浜国立大学 大学教育総合センター 林 義樹 教授

参加人数：29 人

開催日：平成 17 年 3 月 4 日

目的：これからの創造教育にむけて—知識社会を拓く参画理論—

講師：横浜国立大学 教育人間科学部 高橋和子 教授

参加人数：11 人

(出典：FD 研究会まとめ)

授業改善に向けた FD の一環として実施した学生による授業評価アンケートの結果を資料 1-2-2 に示す。なお、平成 17 年度後期以降は、大学の再編・統合のためアンケート調査は未実施である。

学生による全科目の総合評価は、平成 16 年度前期において 5 点満点中 4.3 を示し、その後も 4.1 と比較的高い満足度を維持している。

資料 1-2-2 学生による授業アンケート調査報告

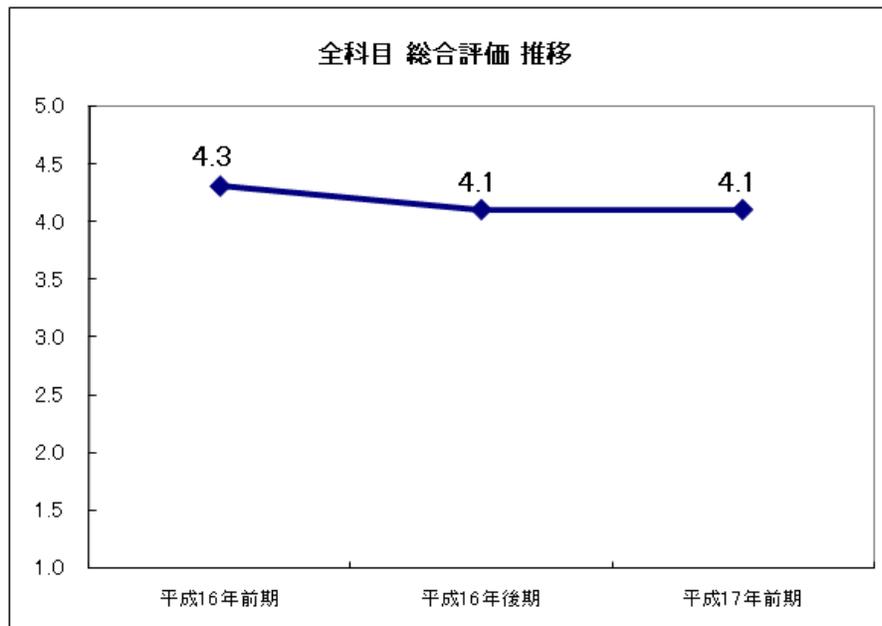
アンケート内容

番号	設問文
1	授業に積極的に取り組むことができましたか
2	授業時間以外でこの科目のために費やした学習時間は週平均でどの程度ですか
3	出席率はどうでしたか
4	授業内容に興味が持てましたか
5	授業内容を理解できましたか
6	この授業で得るものがありましたか
7	教員の授業への取り組みは熱心でしたか
8	課題作りや授業の方法に工夫はみられましたか
9	授業開始・終了の時間は守られていましたか
10	休講回数は少なく、適切に授業が行われていましたか
11	授業の進行速度は適切でしたか
12	11 の設問で 1 または 2 を選んだ人はお答え下さい。 その理由は次のどれですか
13	話しは聞き取りやすかったですか
14	視聴覚機器の利用や板書は適切でしたか

15	教材・資料等はわかりやすく工夫されており，効果的でしたか
16	学生が質問や発言をしやすいように配慮されていましたか
17	学生に対する言動に差別や偏見はみられましたか
18	健康や安全についての配慮は十分でしたか
19	この授業を総合的に評価するといかがですか

(注) 評価は5段階評価で5がもっともよい。

①アンケートの結果例（全科目の総合評価の推移）



②学生に対する教員コメント例

授業名	担当教員名	履修者数	教員コメント
造形入門	小松研治	90名	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の意見やアンケート結果で参考となったもの 多彩な専門分野のモノ作りの教員がリレー形式で行うこの授業は，学生に多様なものの見方や考え方を紹介する点で興味深く受け止められていると判断でき，さらに魅力のある内容にしたい。 ・分かりやすさの点で，スライド，実物の利用が有効である。こうした教材の利用をもっと充実したい。 ・今後の授業改善に向けた考えなど 就職説明会や試験での欠席の扱い方，授業途中での退席を認める方法，教室が若干狭い点などは改善したいと思う。 ・その他雑感 アンケートに対してもっと意見を述べて欲しい。要望や問題点の指摘だけでなく，自分にとって良かったと実感した点などを書いて欲しい。

(出典：平成16年度前期・後期，17年度前期 学生による授業アンケート調査報告書)

また、この報告書には、アンケート結果の集計を掲載するだけでなく、資料1-2-2中の「②学生に対する教員コメント例」に示すように、授業科目ごとに学生に対する教員のコメントを掲載し、学内ウェブ上にもアップロードして全教員が閲覧できるようにした。この結果、教員が自らの授業を振り返り、担当科目における授業方法の改善のための具体的な問題点を明らかにするとともに、授業方法改善のための情報を教員間で共有できた。具体的には、平成16年度前期の教員コメント内容から成績評価方法が統一されていないことに問題があると判明したため、教務委員会に成績評価検討小委員会を設置し、学生の成績評価方法の改善について検討を行い、平成17年1月、成績評価のための具体的な提言を行った（資料1-2-3）。

その結果、提言1から3は直ちに実行され、授業開始期のオリエンテーション時及び授業の初回に、教務委員及び授業担当教員から成績評価方法について学生への周知徹底が図られた。

資料1-2-3 成績評価改善のための実施案

提言1. シラバスへの記載、授業開始期のオリエンテーションなどを通じて、学生への周知徹底を図る。

提言2. 複数教員の担当科目（いわゆるオムニバス科目）の成績評価の改善

提言3. 同一科目（異なる教員による）複数クラスの成績評価の改善

提言4. 全教員参加の成績評価に関するFDの早期実施

提言5. 全学的な統一の評価方法・基準の研究・開発

提言6. 現行の4段階（優・良・可・不可）の見直し・検討

提言1～3は17年度から実施可能

提言5～6は提言4が実施され、教員の理解を深めたうえで着手すべき。

（出典：平成16年度第13回教務委員会配布資料（成績評価検討小委員会報告））

特に、英語教育については提言3に相当する科目が多く、かつ必修科目を含むことから、英語教育担当教員で検討会を数回開催し、ただちに英語諸科目の評価基準をとりまとめた（資料1-2-4）。

資料1-2-4 英語諸科目の評価基準

英語諸科目の評価の原則と科目ごとの評価の基準

〔I〕評価の原則

成績評価は、〔I〕-1「共通の評価基準」を基にし、〔II〕に定めた「科目ごとの評価の基準」に従う。

1 共通の評価基準

- ・出席 (attendance) 20%
- ・授業への参加度 (class participation)
- ・試験・レポート等の課題 (tests and / or assignments)

2 成績評価に関する基本ルール

(1) 出欠

- ・出席は毎回必ずとり，点数化して，成績評価に組み入れる。
- ・出席点の割合はいずれの科目においても全体の成績評価の 20% (100 点中 20 点) とする。
- ・欠席 1 回で 2 点減点，遅刻 1 回で 1 点減点とする。忌引は減点しない。
- ・傷病・就職活動については届が出ていても欠席扱いとする。

(2) 評価に関する諸注意

ア 透明性の維持

- ・各科目における到達目標の達成度が成績に反映されるように配慮する。(何もしなくて 100 点，ということのないようにする。)
- ・科目ごとの個別の評価基準については，数字を用いるなどして，講義要項に具体的に明示し，学生への周知徹底をはかる。
- ・担当者の個別情報 (授業内レポートや授業外課題の頻度など) についても，講義要項に具体的に明示し，学生への周知徹底をはかる。

イ 公平性の維持

- ・同一科目を複数教員が担当する場合 (「英語の読み方」・「英語での表現」は除く) は，担当者間で，教育内容のレベル，教材の難易度などについて十分な話し合いを行う。また，成績評点の平準化についても話し合っておく。
- ・担当者間で評点配分の割合に大きく差が出た場合，平均値を合わせるなどの措置をとり，差を少なくすることで公平を期す。

〔Ⅱ〕科目ごとの評価の基準

区分	科目名	クラス 担当方式	評価基準	平準化の手続き (担当者間で)
基礎 教育 科目	必修	英語の読み方	5 混成 クラス 出席：20% 参加度：40% (参加度＝発言，授 業内レポート，授 業外課題) 試験：40%	・同一教材の使用 ・同一試験の実施 ・同一課題の提供 ・優良可の比重情報 の開示
		英語での表現	2 混成 クラス (2 学科) 出席：20% 参加度：40% (参加度＝発言，授 業内レポート，授 業外課題)	同上
		3 混成 クラス (1 学科)	試験 / レポート： 40%	同上
	英語会話入門	3 クラス 出席：20% 参加度 / テスト等： 80% (参加度＝発言内 容，発言積極性， 発言頻度)	・教材の難易度を揃 える ・平均点調整 ・優良可の比重情報 の開示	

専 門 科 目	英語会話基礎	英語コース用 クラス	出席：20% 参加度/テスト等： 80% (参加度＝発言内 容，発言積極性， 発言頻度)	・単独教員による評 価 ・教材の難易度を揃 える ・平均点調整 ・優良可の比重情 報の開示
		他コース用ク ラス		
	英語講読基礎	2クラス (英語コース 用・他コース 用)	出席：20% 参加度：40% (参加度＝発言，授 業内レポート，授 業外課題) 試験：40%	・教材の難易度を揃 える(英検2級程 度) ・平均点調整 ・優良可の比重情 報の開示
	時事英語基礎	2クラス (英語コース 用・他コース 用)	出席：20% 参加度：40% (参加度＝発言，授 業内レポート，授 業外課題) 試験：40%	同上

(出典：英語教育担当教員会議資料(平成17年1月))

一方、本短大部の実践的・経験的な熟練教育及び地域と共に発展する教育機関となる目標とその実践が文部科学省に評価されて、1件の特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)と2件の現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム(現代GP)が採択された(資料1-2-5)。その結果、本短大部の基本理念である「実戦的、経験的な熟練教育を実施する」をより高度に具現化できた。

資料1-2-5 採択された特色GPと現代GP

- 1 平成16～17年度 特色GP『学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト』
- 2 平成16～17年度 現代GP『「炉端談義」方式による地場産業活性化授業』
－地域と一体となった授業計画実施評価委員会によるものづくり教育－
- 3 平成17～18年度 現代的GP『非言語と言語の融合による地域国際化教育』
－世界に開かれた高岡まちづくり－

(出典：特色GP，現代GP実績報告書)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

実践的、経験的な熟練教育を実施するとともに、感性豊かな地域で活躍できる人材を育成するという基本理念に沿って十分な教育ができるよう、3学科、専攻科(3専攻制)を採用している(資料1-2)。学科、専攻科ともに主要な授業科目を専任教員が担当するよ

うに人員が配置されており、きめ細かな指導を行うのに十分な専任教員数が確保されている（資料1-1-1）。

FDの一環として実施した学生による授業アンケートでは、単にアンケート結果の集計を掲載するだけでなく、授業科目ごとに、学生に対する教員のコメントを掲載して全教員に配布した（資料1-2-2）。この結果、教員間で授業方法改善策の共有ができ、学生の成績評価方法の問題点が明らかとなった。このFD活動により、学生の成績評価方法の改善についてまず英語科目について取りまとめ、平成17年度からの成績評価を改善した（資料1-2-4）。

以上のことから、本短大部の教育の実施体制は、期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 教育内容

（1）観点毎の分析

観点2-1 教育課程の編成

（観点に係る状況）

本短大部は、「少数教育を重視し、より実践的な能力・技能の育成をめざす」ことを特徴として掲げており、学科卒業後に専攻科に進学する学生にとっては、2年制の学科を前期課程とし、さらに2年制の専攻科を後期課程として、専門分野を4年間にわたって継続的に履修できる体制をとっている。

教育課程及び履修方法等は、富山大学高岡短期大学部学則に基づき、学科においては、3学科共通の「基礎教育科目」（卒業所要単位数30単位以上）と、学科ごとに定めた「専門教育科目」（同前34単位以上）を開設している。専攻科においては、3専攻共通の「基礎科目」（修了所要単位数16単位以上）と、専攻科ごとに定めた「専門科目」（同前46単位以上）を開設している。

学科と専攻科、基礎教育と専門教育の均衡がとれ、かつ有機的な連携を考慮した教育科目・シラバスを講義要項（別添資料1、2）及び授業時間割（別添資料3）に掲載し、実施している。なお、平成18年度からは学科学生募集停止のため、平成17年度の教育課程編成資料を別添資料として提示している。

観点2-2 学生や社会からの要請への対応

（観点に係る状況）

本短大部の中期計画では、「教育の成果に関する具体的措置」として、資料2-2-1に示す、関係者の期待に応えるための教育方針を掲げている。

資料2-2-1 教育方針

学 科

- ・基礎教育においては、情報リテラシー教育と語学教育を重視するとともに、融合教育を推進するため、学科、コースが異なる学生が共に学べるクラス編成、カリキュラム編成を行う。
- ・専門教育においては、各コースのコアとなる必修科目を設定すると同時に、学生の希望に応じ他学科のコア科目をも履修できるような自由度の高いカリキュラムを編成する。

専攻科

産業造形専攻

- ・金属、漆、木材に係る専門分野を横断的に学び、修得した能力を社会のニーズに対応して意識的に発展させる力を養う教育を行う。

産業デザイン専攻

- ・刻々と変化する時代や社会に潜在するニーズを的確に把握し、その解決策を提案する企画力、あるいはデザインの情報性を考察できる力を養う教育を行う。

地域ビジネス専攻

- ・経営、情報、外国語の能力が融合した多様な能力を持ち、地域の企業・自治体等のニーズに応じて発展させる力を養う教育を行う。

(出典：高岡短期大学 中期計画)

他学科の専門教育科目又は専攻科の授業科目を、合わせて8単位までは、卒業所要単位として履修することを認めている。

専攻科にあつては、他専攻及び学科の授業科目を、それぞれ6単位までは、修了所要単位として履修することができる。なお、平成18年度から学科学生の募集停止により、学科学生対象の開講科目が学年進行とともに減少し、下級学年開講科目の履修機会が失われることから、教務委員会において「専攻科学生の芸術文化学部授業科目の履修に関する申し合わせ」について審議した。その結果、専攻科学生が、平成18年度に短大部と同一の高岡キャンパスに新設された芸術文化学部の授業科目を履修した場合は、専攻科授業科目（特別講義）として履修したものととして、所属専攻の専門科目の選択科目として、6単位まで修了所要単位として認めることとし、履修機会に配慮している。

また、他大学の授業科目において履修した単位は、基礎科目については8単位、専門科目については22単位まで、修了所要単位に含めることができる。

さらに、大学間交互単位互換制度として、(旧)及び(新)富山大学人文学部、同経済学部において、相互の授業科目を「特別聴講生」として履修し、修得した単位(30単位を上限とする)を規定の範囲内でそれぞれの大学において認定している。平成16年度からの(旧)及び(新)富山大学との単位互換協定に基づく受入・派遣学生については、受入学生44名、派遣学生30名である。

なお、教務委員会において、他学科の授業科目を履修しやすいような授業時間割について検討を行い、その結果、授業時間割は、全ての学科と専攻科における授業科目を1枚の用紙に収め、学生が様々な分野の授業の履修を検討できるよう時間割編成を行っている(別添資料3)。

学生の将来の人生設計を支援するキャリア教育については、本短大部のOB・OGを招聘(各コース2名)し、より実践的な情報収集を可能とした就職説明会を含む、多様なプログラムを実施している(資料2-2-2)。

資料2-2-2 進路指導の実施状況

年度	実施内容	対象学生		実施時期
		学科	専攻科	
16	就職説明会（面接指導・模擬面接，卒業生との就職懇談会，就職情報交流会）	新2年		4月 8日
	保護者との進路懇談会	1・2年		7月29日
	進路説明会（就職指導及び進学指導）	1年	1年	11月 4日
	専攻科進路説明会		1年	12月16日
	進路情報交流会	1年		1月20日 ～2月10日
	その他（会社訪問の推進，学生への求人情報提供・指導助言）	全員	全員	随時
	学生の企業訪問；ものづくり工場見学（産業造形学科・産業デザイン学科）	1年		10月 4日
17	就職説明会（面接指導・模擬面接，卒業生との就職懇談会，就職情報交流会）	新2年		4月 8日
	保護者との進路懇談会	1・2年		7月28日
	進路説明会（就職指導及び進学指導）	1年		11月17日
	専攻科進路説明会		1年	12月15日
	進路情報交流会	1年		1月19日 ～2月10日
	その他（会社訪問の推進，学生への求人情報提供・指導助言）	全員	全員	随時
	学生の企業訪問；ものづくり工場見学（産業造形学科・産業デザイン学科）	1年		10月20日
18	就職説明会（面接指導・模擬面接，卒業生との就職懇談会，就職情報交流会）	2年	2年	4月11日
	保護者との進路懇談会	2年	1・2年	7月30日
	専攻科進路説明会		1年	12月 7日
	その他（会社訪問の推進，学生への求人情報提供・指導助言）	全員	全員	随時
	就職支援出前講座		1年	1月11日
			2年	2年
	キャリアアップ就職講座		2年	1・2年
		2年	1・2年	2月 1日
19	専攻科進路説明会		1年	1月23日
	その他（会社訪問の推進，学生への求人情報提供・指導助言）		全員	随時

就職支援出前講座		1年	1月30日
		2年	2月6日
就職ガイダンス		1・2年	6月27日
		1年	10月24日
キャリアアップ就職講座		1・2年	4月25日
			5月30日
			6月27日
			10月24日
			11月7日
			11月21日
			12月12日
			1月23日

(出典：芸術文化系学務課学生係にて調査)

また、学生の職業観・就業意識を高めるためのインターンシップについては、概ね専攻科1年生だけが対象となるが、富山インターンシップ推進協議会との連携の下で、富山県インターンシップに参加しており、毎年、学生が企業でインターン経験を積んでいる（資料2-2-3）。

資料2-2-3 インターンシップ参加状況

年度	学生数	専攻科の専攻	企業名
16	3名	産業造形	嶋モデリング 設計工房M and M
17	1名	産業デザイン	(株) 島津製作所 デザイン室
18	1名	地域ビジネス	(株) 北陸銀行
19	1名	産業デザイン	富山県総合デザインセンター

(出典：芸術文化系学務課学生係にて調査)

学生の資質・能力・モチベーションを高めるための留学プログラムとしては、デザイン先進国のフィンランドのラハティ・ポリテクニク（平成19年度からラハティ応用科学大学に組織変更）と大学間交流協定を結び、毎年、数名の学生が交換留学している（資料2-2-4）。

資料2-2-4 大学間交流協定に基づく学生派遣・受入実績

年度	派遣先・受入先	派遣学生数	受入学生数
16	ラハティ・ポリテクニク	2名	1名
17	ラハティ・ポリテクニク	3名	4名
18	ラハティ・ポリテクニク	2名	2名
19	ラハティ応用科学大学	2名	2名

(出典：芸術文化学部教務委員会資料)

社会に開かれた大学として、期待される「地域住民への生涯学習環境の提供」として、平成16年度は26、平成17年度は23の公開講座を実施している（平成18年度以降は、新設の芸術文化学部として計上している）。これは、教員数が59人であることを勘案すると、およそ半数の教員が公開講座を担当していることになり、大学のもつ社会的使命である、教育、研究、地域貢献の3つが均衡を保ちながら実施されている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学科においては「基礎教育科目」と「専門教育科目」が、専攻科においては「基礎科目」と「専門科目」が幅広く開設されている（別添資料1）。また、他学科・他専攻の授業科目の履修、(旧)富山大学人文学部・経済学部との単位互換など、学生のニーズに対応し、学習意欲を高めるような教育を実施している。

さらに、実践的な情報収集を可能とした就職説明会など、多様なキャリア教育プログラムを実施している（資料2-2-2）。

学生の資質・能力・モチベーションを高めるため、デザイン先進国のフィンランドのラハティ・ポリテクニクと大学間交流協定を結び、毎年、数名の学生が交換留学している（資料2-2-4）。

「地域住民への生涯学習環境の提供」として、平成16年度は26、平成17年度は23の公開講座を実施している。

これらのことから、本短大部の教育内容は期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅲ 教育方法

（1）観点毎の分析

観点3-1 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

（観点に係る状況）

本短大部の授業科目の授業形態については、各学科・専攻科の特性に応じた構成をとり、講義、演習、実習、実験等の授業形態のバランスを図っている。

開設科目別の担当教員・履修者登録数は、「別添資料1」のとおりである。

演習・実習・実験科目では3コマ連続で授業を行う専用の「演習・実習タイムテーブル」を採用し、短期集中したものづくり教育ができるよう工夫している（別添資料3）。

中期計画では、「教育理念等に応じた教育課程の編成」として資料3-1-1に示す教育課程方針を掲げて、教務委員会及び学科において教育内容を検討し、学生の立場に立った教育課程の編成と授業形態をとっている。

資料3-1-1 教育課程方針

- ・ 複数の専門分野の授業を履修できるようなシステム、カリキュラムを編成する。
- ・ 少人数教育を重視し、より実践的な能力・技能の育成を目指した授業形態や学習指導方法を行う。このため、演習・実習形式の科目は少人数クラス編成とすると共に、他の授業についても、学生を複数のクラスに分けて行う複数クラス授業を取り入れる。
- ・ 実践的な能力・技能の教育の一環として、学生が授業の中で地域社会と係わることができる課題設定及び履修システムを導入する。

（出典：高岡短期大学 中期計画）

他学科・他専攻の講義科目のほか、演習・実習科目についても履修が可能なように、授業時間割を各学科及び教務委員会において調整した結果、他学科・他専攻等の履修状況は資料3-1-2のようになった。また、資料3-1-3のように少人数クラス及び複数クラスの授業を、資料3-1-4のように地域連携授業を行った。

この結果、教育課程方針を達成することができた。

資料3-1-2 複数の専門分野の授業を履修できるようなシステム、カリキュラムの具体例

他学科履修者数	前期 51名	後期 26名
他専攻履修者数	前期 38名	後期 10名
学科生の専攻科目履修者数	前期 57名	後期 43名
専攻科生の学科科目履修者数	前期 23名	後期 1名

（注）人数は平成16年度の実績である。

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

資料3-1-3 少人数クラス及び複数クラス的具体例

- ・ 少人数クラス (10名以下)
「漆工素地制作」「挽物」「木彫」
- ・ 複数クラス
「CG入門」「英語の読み方」「英語での表現」「英語会話入門」「インターネット利用のための英語」「英語会話基礎」「英語会話中級」「英語講読基礎」「時事中国語」「基礎中国語 A, B, C」「応用中国語 A, B, C」「中国研究基礎 I, II」「中国語入門」「体育 I (からだ育て)」「体育 II (からだ気づき)」「情報処理入門」

(出典：芸術文化学部教務委員会資料)

資料3-1-4 地域連携型授業的具体例

「広告デザイン」「パブリックスペース」「まちづくり」特別講義「商品企画立案演習」
「社会環境と産業」「複合造形」「総合工芸演習」「木材工芸演習」「デザインリサーチ論」

(出典：芸術文化学部教務委員会資料)

中期計画に沿って、科目間の連携を重視したカリキュラム編成、各授業における学習目標や目標達成のための授業方法・計画及び成績評価基準を明示したシラバスを作成した(別添資料2)。このシラバス構成では、学生が知りたい内容を整理して項目化し、全教員が同一の書式で講義概要を記述するようにした(資料3-1-5)。シラバスは学生に配布するとともに、ホームページ上で公開している。

資料3-1-5 シラバスの構成

「授業の目標」「授業の概要」「学生の学習目標(授業の到達目標)」「評価の方法・割合」
「レポート等」「テキスト・教材・参考書等」「その他履修上の注意事項や学習上の助言」

(出典：芸術文化学部教務委員会資料)

さらに、各教員が授業の初回で、履修学生に対してシラバスの全内容を説明することによって、学生のシラバスに対する理解を深め、シラバスに沿った授業が行われる仕組みになっている。平成14～17年度まで、学期末にシラバスに対応した授業が行われたかについて学生へ授業評価アンケート調査を行った結果、おおむねシラバスの沿った授業が行われていた(資料1-2-2)。

卒業研究の成果物である卒業論文集を編集し図書館に配架したり、卒業・修了制作展や大学間交流協定校であるラハティ・ポリテクニクとの学生作品相互交流展を開催して、学生の学習意欲を高めるような工夫をしている(資料3-1-6)。

また、演習・実習科目では、常に課題作品の外部評価を心がけ、関係業界及び一般市民への広報とともに授業成果発表展を実施している(資料3-1-7)。

資料3-1-6 卒業・修了制作展, 学生作品相互交流展の実施状況

卒業・修了制作展

年度	名 称	会 期	学外展会場 (学内展は 高岡キャンパス内)	入場者 数 (人)
16	卒業・修了制作展(学外展)	2月11日～15日	富山県民会館 美術館	1,015
	(学内展)	3月12日～18日		479
17	卒業・修了制作展(学外展)	2月10日～14日	富山県民会館 美術館	872
	(学内展)	3月18日～24日		515
18	卒業・修了制作展(学外展)	2月9日～13日	富山県民会館 美術館	857
	(学内展)	3月16日～22日		765
19	修了制作展(学外展)	2月9日～13日	富山市民プラザ	575
	(学内展)	3月15日～21日	アトリウム	338

大学間交流協定校との学生作品相互交流展(隔年開催)

年度	名 称	会 期	会 場	展示品
17	ラハティ・ポリテクニク との学生作品相互交流展	9月9日～22日	ラハティ・ ポリテクニク (フィンランド)	短大部の学 生作品
19	ラハティ応用科学大学 との学生作品相互交流展	1月21日～29日	高岡キャンパス	ラハティ応 用科学大学 の学生作品

(出典:総務管理課地域交流係にて調査)

資料3-1-7 授業成果発表展の実施状況

年度	名 称	会 期	会 場 (空欄は高岡キャンパス内)	展 示 内 容 等
16	1 楽しいノーマイカーデーの提案	4月5日～4月9日	高岡市役所1階	グラフィックデザイン演習の学習成果
	2 金屋町「さまのこ」フェスタ	5月2日・3日	最勝寺(高岡市金屋町)	金属工芸の学生作品及び「高岡銅器の未来を探る」(産業デザイン学科の学生によるパネル)を展示
	3 産業デザイン学科学生作品展 (ビジュアル基礎表現)	8月2日		ビジュアル基礎表現の学習成果 プリントしたTシャツの公開
	4 金屋町のポストデザイン提案	8月7日～8月8日	高岡市金屋町公民館	パブリックスペースの学習成果
	5 第20回樹木との語り展	10月6日～10月12日		家具制作, 木彫技法, 挽物技法の学習成果
	6 第18回漆工展	10月6日～10月12日		漆技法, 蒔絵技法, 彩漆技法, 変漆技法, 彫漆技法の学習成果
	7 高岡景観ポスター展示	10月9日～10月10日	三鷹産業プラザ7階ホール	デザインプレゼンテーションの学習成果
	8 第20回金工展	10月14日～10月20日		平面表現演習, 立体表現演習, 鋳金I, 原型制作, 彫金, 鍛金, 金属加工等の学習成果
	9 さまのこアートインよっさ	10月16日・17日		高岡市吉久地区からの依頼により, 学生作品を展示
	10 第9回三造展	10月26日～10月31日		複合造形, 金属・漆・木材工芸制法, 現代総合工芸演習, 造形工芸実習の学習成果
	11 学生作品によるクリスマス・ディスプレイ	12月13日～12月24日		「タイポグラフィ」の課題として制作した作品の学習成果
	12 現代GP「連鎖授業」 ”高岡銅器・漆器の未来を探る!”パネル展	1月17日～1月31日		現代GPに採択された「舂端談義」方式による演習科目「デザインの進め方」の学習成果
	13 現代仏具・偲ぶ空間の調度品のデザイン展 (総合工芸演習)	2月4日～2月9日		「総合工芸演習」の学習成果発表および高岡仏具卸業協同組合協力による仏具の展示
	14 専攻科産業デザイン専攻学生作品展 (グラフィックデザイン演習、総合デザイン実習I)	2月28日～3月4日		グラフィックデザイン演習, 総合デザイン実習Iの学習成果
	15 産業デザイン学科学生作品展 (新聞広告評価展示)	3月7日～3月18日 3月21日～3月31日 3月16日～3月21日	氷見中央郵便局 氷見伏木信用金庫 ハートフル・スクエアG (岐阜市)	広告デザインの学習成果

富山大学高岡短期大学部 分析項目 III

年度	名 称	会 期	会 場 (空欄は高岡キャンパス内)	展 示 内 容 等
17	1 金屋町「さまのこ」フェスタ	4月30日・5月1日		金屋町(最勝寺)において、金属工芸の学生作品を展示
	2 「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」展(産学連携授業による成果発表会)	6月8日～7月4日 7月5日～8月1日 8月1日～8月6日 8月9日～8月21日	氷見市海浜植物園 氷見クリック ウイング・ウイング高岡	本学とマイスター事業協同組合(氷見市)との産学連携授業の成果
	3 ウイングウイング 大学紹介パネル展	6月14日～6月26日	ウイング・ウイング高岡	一般市民に幅広く本学を紹介するため、学生作品のパネルおよび教員の研究成果のパネルを展示
	4 産業造形学科学学生作品展(家具制作)「洗心苑」のための家具制作 作品展	7月12日～7月15日		平成17年度特色GP「学内を学生作品で埋め尽くそうプロジェクト」の一環として、実技授業「家内制作」で制作した本学宿泊施設「洗心苑のための家具制作」学生作品を展示
	5 現代GP「炉端談義プロジェクト」展	7月25日～8月5日		現代GP「炉端談義プロジェクト」の学習成果
	6 第21回金工展	10月6日～10月11日		平面表現演習、立体表現演習、鍍金I、原型制作、彫金、鍛金、金属加工等の学習成果
	7 第21回樹木との語り展	10月13日～10月18日		家具制作、木彫技法、挽物技法の学習成果
	8 第19回漆工展	10月13日～10月18日		漆技法、蒔絵技法、彩漆技法、変漆技法、彫漆技法の学習成果
	9 さまのこアートインよっさ	10月15日～10月16日		高岡市吉久地区からの依頼により、学生作品を展示
	10 第10回三造展	10月20日～10月30日		複合造形、金属・漆・木材工芸制法、現代総合工芸演習、造形工芸実習の学習成果
	11 産業デザイン学科学学生作品展	12月10日～22日		タイポグラフィの学習成果
	12 産業デザイン学科学学生作品展	12月14日～22日		製品計画、CIデザイン、CG演習Iの学習成果
	13 「高岡銅器の未来を探る！」展	1月16日～30日		現代GP「炉端談義」方式による「デザインの進め方」の学習成果
	14 現代仏具・偲ぶ空間の調度品のデザイン展	2月3日～7日		総合工芸演習の学習成果
	15 新聞広告 評価展示	3月6日～17日 3月20日～31日 4月3日～4月28日	氷見郵便局ロビー 伏木信用金庫ロビー 氷見商工会議所	氷見市商工会議所とのコラボレーションによる授業「広告デザイン」で制作した新聞広告コンペを公開
18	1 金屋町さまのこフェスタ	4月29日・30日	最勝寺(高岡市金屋町)	金属工芸コースの学生作品を展示
	2 「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」展(産学連携授業による成果発表会)	6月7日～7月3日	氷見市海浜植物園	本学とマイスター事業協同組合(氷見市)との産学連携授業の学習成果
	3 第22回金工展	10月5日～10月10日		平面表現演習、立体表現演習、鍍金I、原型制作、彫金、鍛金、金属加工等の学習成果
	4 第22回樹木との語り展	10月12日～10月17日		家具制作、木彫技法、挽物技法の学習成果
	5 第20回漆工展	10月12日～10月17日		漆技法、蒔絵技法、彩漆技法、変漆技法、彫漆技法の学習成果
	6 第11回三造展	10月19日～10月29日		複合造形、金属・漆・木材工芸制法、現代総合工芸演習、造形工芸実習の学習成果
	7 さまのこアートインよっさ	10月20日～21日	高岡市吉久地区	高岡市吉久地区からの依頼により、学生作品及び教員作品を展示
	8 総合工芸演習 学習成果発表展	2月6日～2月12日		総合工芸演習での学習成果 高岡仏具協同組合による仏具の展示
19	1 金屋町さまのこフェスタ	4月29日～4月30日	最勝寺(高岡市金屋町)	高岡市金屋地区からの依頼により、金属工芸の卒業生作品を展示
	2 トレー展	4月16日～4月20日		カペラゴードン(スウェーデン)と富山大学が同一課題「トレーの制作」に取り組み制作された学生作品を展示
	3 「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」2005-2007展	7月5日～7月30日	氷見市海浜植物園	「地場産杉(間伐材)を使用したインテリア・家具の提案」を目的とした産学連携授業を05年度～07年度の3年間に提案された学生作品20作品の展示
	4 第12回三造展	10月11日～21日		複合造形、金属・漆・木材工芸演習、造形工芸実習の学習成果
	5 フィンランド留学レポート	11月1日～12日		ラハティ大学留学生2名による成果報告展
	6 総合工芸演習 学習成果発表展	2月4日～2月12日		総合工芸演習での学習成果 高岡仏具協同組合による仏具の展示

(出典：総務管理課地域交流係にて調査)

観点3-2 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

授業科目の履修にあたっては、シラバスに授業の目標、概要、学習目標、参考書などを記載し、学生の自主学習を促している。また講義要項には、教員のオフィスアワー（複数時間設定）とメールアドレスを明記することにより、学生は授業時間外であっても受講科目担当者から個別に直接指導を仰ぐことができる仕組みとなっている。

履修ガイダンスは、学年のはじめに、全体オリエンテーション、学科別・専攻別オリエンテーションを行い、学生の学習目標に応じた履修指導や時間外学習の指導を行っている（資料3-2-1）。なお、平成17年度まで募集していた学科生には、全教員が参加する1泊2日の合宿形式で、学生と教員の交流も含めたきめ細かい新入生オリエンテーションを実施した。

資料3-2-1 平成19年度 専攻科生オリエンテーション実施状況

開催日時	内 容	対象者
4月10日 13:30~14:45	全体オリエンテーション (学生生活・教務関係、学位授与制度の説明)	1年生
4月10日 15:00~16:30	専攻別オリエンテーション (1・2年生合同で専攻毎に、開講科目、指導教員制度、就職進路等について説明)	1・2年生

(出典：芸術文化学部教務委員会資料)

工芸・デザインに係る制作については、バランスよく授業での学習と授業時間外学習を指導できるように学生控室と教員研究室を隣接させる工夫をしている。また、午前8時から午後10時まで学生が自由に使えるコンピュータを30台配置した自習・教材作成室を設け、授業時間外学習に取り組める環境を整備している。

以上のように、学生に主体的な学習を促し、単位の実質化が確保される体制と工夫を行っている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本短大部の教育は、「少人数教育と実践的な能力・技能の育成めざす」ことが特徴であり、各学科、専攻科の「学習・教育目標」の特性に応じ授業を展開している。学習指導方法の工夫については、複数専門分野の科目を履修できるシステム、少人数教育、プロジェクト型授業、外国語科目の複数クラス編成など、期待される「人材の輩出」に適切な授業形態を採用している（資料3-1-2、資料3-1-3、資料3-1-4）。

これらのことから、教育目標に照らして、学科、専攻科全体として授業形態の組み合わせバランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされていると判断する。

授業担当教員は、学生が授業内容を理解しやすいように工夫されたフォーマットに沿ってシラバスを記入することが義務付けられている（資料3-1-5）オリエンテーション時及び初回の授業において、シラバスの内容の周知に努めている。また、授業担当教員は、「成績評価改善のための実施案」に基づいてより明確な成績評価基準を設定している（資

料 1-2-3)。

学生が自らの学習目標を設定し、必要な学習時間を確保するように、学年はじめにオリエンテーションを行っている(資料 3-2-1)。また、オフィスアワーによる授業時間外の個別指導、学生控室と教員研究室を隣接化、コンピュータ設置学習室などにより、授業時間外の学習体制の充実が図られている。

これらのことから、学生に主体的な学習を促し、単位の実質化への配慮が適切になされていると判断する。

以上のことから、本短大部の教育方法は期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点毎の分析

観点 4-1 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

本短大部では、「学士」の取得を可能にする 2 年制の専攻科を設置している。

学科卒業生の専攻科への進学状況は、教育の成果を示す指標と考えられるが、この専攻科進学率は高い値を示し(資料 4-1-1)、また専攻科における「学士」学位取得状況はほぼ 100 パーセントである(資料 4-1-2)。

一方、教育目標である「産業・芸術・文化の発展に積極的に貢献できる人材の育成」に照らして、平成 16 年から平成 19 年にかけて、学科及び専攻科の在学生在が県内・全国レベルの作品公募展に出品し、延べ 47 名が入選・入賞を果たすなど、優れた教育成果を上げている。また、平成 16 年度以降の卒業・修了生も延べ 11 名が入選・入賞を果たしている(資料 4-1-3)。

観点 4-2 学業の成果に関する学生の評価

(観点にかかる状況)

本短大部の特色ある教育活動の一環として実施した特色 GP 及び現代 GP では、授業で制作した家具や観光資源地図を大学キャンパス内に設置して利用し、現実社会と同じように有用性や耐久性等を評価し、つまりキャンパスを社会化した実践的教育や地域の資源を発掘して世界へ向けて発信する授業を展開してきた。

この GP 関連授業に参加した学生に対してアンケート調査を実施した結果、授業を受けたことによって、環境やものづくりに対する関心・興味の向上や高岡のまちづくりに対する関心の高まりなど、教育成果の向上が認められた(資料 4-2-1)。

資料4-1-1 学科生の専攻科進学率

卒業 年度	人数・進学率	学 科			
		産業 造形	産業 デザイン	地域 ビジネス	計
16	専攻科進学者(名)	20	9	7	36
	卒業者(名)	54	23	138	215
	専攻科進学率(%)	37.0	39.1	5.1	16.7
17	専攻科進学者(名)	22	7	6	35
	卒業者(名)	54	25	126	205
	専攻科進学率(%)	40.7	28.0	4.8	17.1
18	専攻科進学者(名)	22	4	7	33
	卒業者(名)	49	26	137	212
	専攻科進学率(%)	44.9	15.4	5.1	15.6
19	専攻科進学者(名)	22	12	2	36
	卒業者(名)	50	27	127	204
	専攻科進学率(%)	44.0	44.4	1.6	17.6

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

資料4-1-2 専攻科修了者の「学士」学位取得状況

卒業 年度	人数・学士合格率	専 攻			
		産業 造形	産業 デザイン	地域 ビジネス	計
16	修了者(名)	18	8	8	34
	申請者(名)	18	8	7	33
	合格者(名)	18	8	7	33
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0
17	修了者(名)	21	8	6	35
	申請者(名)	20	8	4	32
	合格者(名)	18	8	4	30
	合格率(%)	90.0	100.0	100.0	93.8
18	修了者(名)	21	8	8	37
	申請者(名)	19	8	7	34
	合格者(名)	19	8	7	34
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0
19	修了者(名)	25	8	7	40
	申請者(名)	25	8	7	40
	合格者(名)	25	7	7	39
	合格率(%)	100.0	87.5	100.0	97.5

(注) 学士区分は、産業造形専攻は「芸術学」、産業デザイン専攻は「芸術工学」、地域ビジネス専攻は「経営学」である。

(出典：芸術文化系学務課教務係にて調査)

資料 4-1-3 学生表彰一覧

在学生

年 (平成)	受賞学生	受賞内容	主催機関	
16	学科 2 年	C S デザイン学生賞	中川ケミカル	
	専攻科 1 年	第 59 回県展奨励賞	富山県	
	専攻科 2 年	日本パッケージデザイン展 2004 とやまパッケージデザイン大賞	日本パッケージデザイン協会	
	専攻科 1 年	日本パッケージデザイン展 2004 とやまパッケージデザイン賞	日本パッケージデザイン協会	
	専攻科 2 年	日本パッケージデザイン展 2004 とやまパッケージデザイン奨励賞	日本パッケージデザイン協会	
	専攻科 2 年	日本パッケージデザイン展 2004 とやまパッケージデザイン奨励賞	日本パッケージデザイン協会	
	専攻科 2 年	日本パッケージデザイン展 2004 とやまパッケージデザイン協会賞	日本パッケージデザイン協会	
	専攻科 2 年	日本パッケージデザイン展 2004 とやま特別賞	日本パッケージデザイン協会	
	学科 2 年	第 44 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会	
	学科 2 年	第 44 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会	
	専攻科 1 年	第 44 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会	
	17	専攻科 2 年	高岡市民美術展入選	高岡市
		専攻科 2 年	第 60 回県展入選	富山県
専攻科 2 年		第 1 回現代工芸美術家協会富山会公募展入選	現代工芸美術家協会	
専攻科 1 年		第 1 回現代工芸美術家協会富山会公募展入選	現代工芸美術家協会	
専攻科 1 年		第 1 回現代工芸美術家協会富山会公募展入選	現代工芸美術家協会	
専攻科 1 年		第 1 回現代工芸美術家協会富山会公募展入選	現代工芸美術家協会	
専攻科 1 年		第 37 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選	総合デザイナー協会	
専攻科 1 年		第 37 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選	総合デザイナー協会	
専攻科 1 年		第 37 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選	総合デザイナー協会	
専攻科 1 年		第 38 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選	総合デザイナー協会	
学科 2 年		第 45 回富山県デザイン展優秀賞	富山県デザイン協会	
学科 2 年		第 45 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会	
専攻科 1 年		第 45 回富山県デザイン展優秀賞	富山県デザイン協会	
専攻科 1 年		第 45 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会	
専攻科 1 年		第 45 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会	

	専攻科 2年	第 8 回全日本金銀創作展入選	全日本金・銀創作展開催委員会
18	専攻科 1年	2005 ヒューマノイドロボット・デザイン・コンテスト審査員特別賞	ヒューマノイドロボット・デザイン・コンテスト実行委員会
	専攻科 2年	第 47 回富山県インテリアデザインコンクール日本インテリア設計士協会賞	富山県インテリア設計士協会
	専攻科 1年	2006 ヒューマノイドロボット・デザイン・コンテスト クリエーターズ・ステーション賞	ヒューマノイドロボット・デザイン・コンテスト実行委員会
	専攻科 1年	2006 ヒューマノイドロボット・デザイン・コンテスト 審査員特別賞	ヒューマノイドロボット・デザイン・コンテスト実行委員会
	専攻科 2年	高岡クラフトコンペ審査員賞・町田俊一賞	高岡クラフトコンペ 実行委員会
	専攻科 2年	富山県デザインフェア 2006 パッケージデザインコンペティションパッケージデザイン大賞	富山県デザインフェア実行委員会
	専攻科 2年	富山県デザインフェア 2006 パッケージデザインコンペティションパッケージデザイン賞	富山県デザインフェア実行委員会
	専攻科 1年	富山県デザインフェア 2006 パッケージデザインコンペティションパッケージデザイン協会賞	富山県デザインフェア実行委員会
	専攻科 2年	富山県デザインフェア 2006 パッケージデザインコンペティション富山県デザインフェア 10 周年記念特別賞	富山県デザインフェア実行委員会
	学科 2年	第 46 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会
	専攻科 2年	第 46 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会
19	専攻科 1年	第 47 回日本クラフト展入選	日本クラフトデザイン協会
	専攻科 1年	第 47 回富山県デザイン展学生大賞	富山県デザイン協会
	専攻科 1年	第 47 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会
	専攻科 1年	第 47 回富山県デザイン展奨励賞	富山県デザイン協会
	専攻科 1年	新湊産シロエビをアピールするロゴマークコンテスト最優秀賞	新湊漁業協同組合
	専攻科 1年	新湊産シロエビをアピールするロゴマークコンテスト入選	新湊漁業協同組合
	専攻科 1年	サントリーワークショップチーム対抗商品開発選手権 2007 準優勝	(株) サントリー
	専攻科 1年	日本パッケージデザイン展 2007 とやま奨励賞	日本パッケージデザイン協会
	専攻科 1年	日本パッケージデザイン展 2007 とやま日本パッケージデザイン協会賞	日本パッケージデザイン協会

卒業生・修了生

年 (平成)	受賞学生	受賞内容	主催機関
16	学科平成 2 年卒業	県展賞	富山県
	学科平成 15 年卒業	県展賞	富山県
	学科平成 16 年卒業	第 36 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選 (グラフィック部門)	総合デザイナー協会
	学科平成 16 年卒業	第 36 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選 (グラフィック部門)	総合デザイナー協会
	学科平成 16 年卒業	第 36 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選 (グラフィック部門)	総合デザイナー協会

	学科平成 16 年卒業	第 36 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選 (グラフィック部門)	総合デザイナー協会
	学科平成 16 年卒業	第 37 回毎日・DAS 学生デザイン賞入選 (工業デザイン部門)	総合デザイナー協会
	専攻科平成 6 年修了	第 55 回県勤労者美術展厚生労働大臣賞 (彫刻・工芸)	富山県
	学科昭和 63 年卒業	第 43 回日本伝統工芸富山展入選 (漆芸)	日本工芸会
	専攻科平成 11 年修了	第 43 回日本伝統工芸富山展入選 (漆芸)	日本工芸会
	専攻科平成 16 年修了	第 43 回日本伝統工芸富山展入選 (漆芸)	日本工芸会
	学科昭和 63 年卒業	第 36 回日展入選	日展
	学科平成 2 年卒業	第 36 回日展再入選	日展
1 7	学科平成 15 年卒業	第 35 回日彫展入選	日本彫刻会
	専攻科平成 11 年修了	第 44 回日本伝統工芸富山展入選 (漆芸)	日本工芸会
	専攻科平成 16 年修了	第 44 回日本伝統工芸富山展入選 (漆芸)	日本工芸会
	学科平成 15 年卒業	富山 ADC 展 2005 準グランプリ	富山アートディレクターズクラブ
	学科昭和 63 年卒業	第 37 回日展特選	日展
	学科平成 2 年卒業	第 37 回日展再入選	日展
	学科平成 8 年卒業	第 37 回日展再入選	日展
	学科平成 9 年卒業	第 37 回日展再入選	日展
	学科平成 15 年卒業	TOYAMA ADC 賞準グランプリ	富山アートディレクターズクラブ
	学科平成 15 年卒業	TOYAMA ADC 賞中西”サビー”一志ベスト チョイス賞	富山アートディレクターズクラブ
学科平成 4 年卒業	第 52 回日本伝統工芸展再入選 (漆芸)	日本工芸会	
1 8	学科平成 2 年卒業	第 38 回日展再入選	日展
1 9	学科昭和 63 年卒業	第 39 回日展再入選	日展
	学科平成 2 年卒業	第 39 回日展再入選	日展
	学科平成 2 年卒業	第 39 回日展入選	日展
	学科平成 13 年卒業	工芸都市高岡 2007 クラフトコンペティ ション入選	工芸都市高岡クラフトコンパ 実行委員会
	専攻科平成 16 年修了	工芸都市高岡 2007 クラフトコンペティ ション入選	工芸都市高岡クラフトコンパ 実行委員会
	専攻科平成 18 年修了	工芸都市高岡 2007 クラフトコンペティ ション入選	工芸都市高岡クラフトコンパ 実行委員会
	専攻科平成 19 年修了	工芸都市高岡 2007 クラフトコンペティ ション入選	工芸都市高岡クラフトコンパ 実行委員会
	専攻科平成 14 年修了	第 47 回富山県デザイン展 Under30 賞	富山県デザイン協会
専攻科平成 17 年修了	無印良品国際デザインコンペ 「MUJI AWARD 02」審査員賞	ムジアワード事務局	

(出典：総務管理課総務係にて調査)

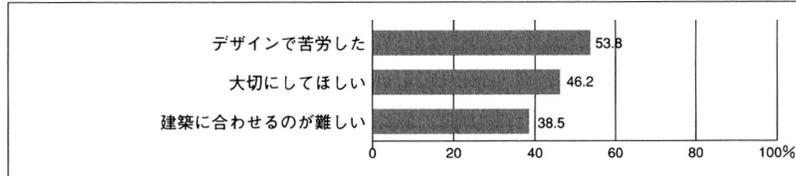
資料4-2-1 特色GP及び現代GPの授業アンケート結果

- ① 平成16～17年度 特色GP『学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト』に係る授業での学生アンケートの例

授業名：家具制作 ， 受講者：産業造形学科13名
 課題：高岡キャンパス宿泊施設「洗心苑」で使う家具の制作

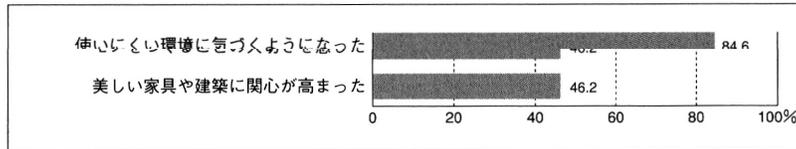
(1) 洗心苑の家具制作参加学生 (13名)

設問1 実際の建築物の中に設置する家具制作を行って意識したこと、感じたこと



・洗心苑がもつた利用自由が多い施設についていつも入居者が困りに感じていた。

設問2 授業を通して環境やものづくりに対する関心・興味が(どう)変わったか



コメント ・実際に作ってみると頭の中で考えているよりうまくいかないことが多かったし、デザインにとらわれず、生活や利用者のことをよく考えた。それがいい経験になったと思う。

- ② 平成17～18年度 現代的GP『非言語と言語の融合による地域国際化教育ー世界に開かれた高岡まちづくりー』に係る授業での学生アンケートの例

授業名：「まちづくり」
 受講者：産業デザイン学科9名，地域ビジネス学科19名
 課題：高岡市の祭り・土産・伝統的町並み，外国人から見た日本の生活などの調査・分析

01. 町中調査をして新たな発見があった
 はい：21名 / いいえ：1名 / どちらでもない：3名
02. 地域の人とのコミュニケーションができた
 はい：18名 / いいえ：5名 / どちらでもない：2名
03. 学科混成グループ共同作業は効果的だった
 はい：13名 / いいえ：6名 / どちらでもない：6名
04. 高岡のまちづくりに対する関心が高まった
 はい：18名 / いいえ：7名 / どちらでもない：0名
05. グリーンマップに対する関心が高まった
 はい：11名 / いいえ：2名 / どちらでもない：11名
06. 卒研や卒制でグリーンマップをしたいと思うか
 はい：2名 / いいえ：16名 / どちらでもない：7名

(出典：平成16～17年度 特色GP実績報告書，平成17年度 現代GP実績報告CD)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学科卒業生の「学士」学位取得を可能にする専攻科への進学率、専攻科修了生の「学士」学位取得率の状況から、教育の成果が上がっている(資料4-1-1, 資料4-1-2)。

また、学科及び専攻科の学生が身につけた資質・能力・モチベーションは高く、県内・全国レベルの作品公募展で多数入選・入賞している(資料4-1-3)。具体的な在学生の入選・入賞者数は、平成16年11名、17年度16名、18年度11名、19年度9名(19年度は学科生が不在の年度)となっている。また、平成16年度以降の卒業・修了生も延べ11名が入選・入賞を果たしており、在学中に身につけた資質・能力に加えて卒業後も高いモチベーションを維持している学生が多いことが分かる。

さらに、特色GP及び現代GPの授業アンケート結果からも分かるように、環境やものづくりに対する関心・興味の向上や高岡のまちづくりに対する関心の高まりなど学生の学習意識の向上が毎年積み重ねられている(資料4-2-1)。

以上のことから、本短大部の特徴である実践的・経験的な熟練教育等の観点に照らして学業の成果は上がっていると判断する。

分析項目 V 進路・就職の状況

(1) 観点毎の分析

観点 5-1 卒業（修了）後の進路の状況

(観点に係る状況)

短大部卒業（修了）後の産業別・地域別就職状況及び進路状況は、別添資料 4 のとおりである。

人文、社会、芸術の区分に渡る学科構成をもつ短大部として、全国の統計値と比較して、就職・進学とも十分な実績が上がっている（資料 5-1-1）。

このことから、教育の効果は充分上がっていると判断できる。

資料 5-1-1 全国短期大学関係学科別・進路別卒業生数（平成 18 年度）

(数是人, 率は%)

		卒業生数	進学者数	進学率	就職者数	就職率	進学・就職率
全国の統計値	区分計	92,100	11,026	12.0	64,623	70.2	82.1
	人文	11,990	2,335	19.5	6,731	56.1	75.6
	社会	11,532	1,446	12.7	8,315	72.1	84.8
	芸術	3,867	971	25.1	1,348	34.9	60.0
本短大部(学科)		204	60	29.4	115	56.4	85.8

(出典：平成 19 年度 学校基本調査)

観点 5-2 関係者からの評価

(観点に係る状況)

本短大部では、卒業（修了）生（各コースから 2 名ずつ）と在学生との就職に関する懇親会を毎年 4 月に開催している。また、就職進路委員会では、主な就職先及び進学先の一覧を作成して全教員に配布し、機会をみて全教員が関連企業等を訪問して卒業（修了）生の就業状況や要望について聞き取り調査をしている（資料 5-2-1）。これらにより、教育効果の検証を行っている。

資料 5-2-1 関連企業等への聞き取り調査のための主な就職先及び進学先

(数値は、就職・進学者数を表す)

一般企業

平成 18 年度卒業（修了）	平成 17 年度卒業（修了）	平成 16 年度卒業（修了）
(株)北鉄航空	(株)富山第一銀行	(株)富山銀行
4	6	5
北銀ビジネスサービス(株)	(株)北國銀行	日本保険損害査定(株)
3	6	5
(株)北國銀行	北銀ビジネスサービス(株)	(株)アイメディカルシステム
3	5	3
(株)富山銀行	(株)スギノマシン	(株)アスプコミュニケーションズ
3	4	3
日本郵政公社	(株)アスプコミュニケーションズ	(株)神島リビング
3	3	3
(株)大和	日本郵政公社	澁谷工業(株)
2	3	3
大和証券	北銀ソフトウェア(株)	(株)富山第一銀行
2	3	3

伏木海陸運送株式会社	2	堀江硝子 (株)	3	北銀ビジネスサービス株式会社	3
東邦工業株式会社	2	エーエヌエーホテル富山	2	小沢眼科医院	2
富山地鉄サービス株式会社	2	小沢眼科医院	2	(株) 金沢レジャー計画	2
田中精密工業 (株)	2	キタムラ機械 (株)	2	キタムラ機械 (株)	2
立山科学グループ	2	(株) 米三	2	(株) ジャストミートコーポレーション	2
澁谷工業株式会社	2	澁谷工業株式会社	2	CERUBO	2
日本ソフテック株式会社	2	設計工房 MandM	2	(株) ドラッグフジイ	2
サクラパックス株式会社	2	(株) セントラルファイナンス	2	日本銀行金沢支店	2
アメリカンホーム保険会社	2	(株) 大和香林坊店	2	北銀ビジネスサービス株式会社	2
		日本銀行金沢支店	2	(株) マツタニ	2
		日本保険損害査定 (株)	2		
		(株) ブランドオフ	2		
		ホクショー (株)	2		
		北陸コンピュータサービス (株)	2		
		(株) モス・ホテル日航金沢	2		

公務員

平成 18 年度卒業 (修了)		平成 17 年度卒業 (修了)		平成 16 年度卒業 (修了)	
富山市職員	1	富山県職員	3		
愛知県立常滑高等学校実習助手	1	名古屋国税局	1		
		福井地方方法務局	1		

進学先

平成 18 年度卒業 (修了)		平成 17 年度卒業 (修了)		平成 16 年度卒業 (修了)	
富山大学 高岡短期大学部専攻科	36	富山大学 高岡短期大学部専攻科	33	富山大学 高岡短期大学部専攻科	35
富山大学 経済学部	5	中央大学 商学部 (指)	1	立命館大学 産業社会学部 (指)	1
武蔵野美術大学	2	明治学院大学 経済学部 (指)	1	中央大学 商学部 (指)	1
富山大学 人文学部	2	富山大学 人文学部	3	富山大学 人文学部	1
東京芸術大学 大学院	2	富山大学 経済学部	1	中央大学 経済学部	1
石川県立 輪島漆芸技術研修所	2	信州大学 人文学部	1	女子美術大学 芸術学部	2
		愛知県立大学 外国語学部	2	名古屋造形芸術大学 造形芸術学部	1
		名古屋市立大学 人文学部	1	京都造形芸術大学 芸術学部	1
				多摩美術大学 グラフィックデザイン学科	1
				金沢星陵大学 経済学部	1
				日本大学 生産工学部	1
				同志社大学	1

			文学部	
			富山大学 大学院経済学研究科	1
			東京藝術大学 大学院美術研究科	1

(出典：芸術文化系学務課学生係にて調査)

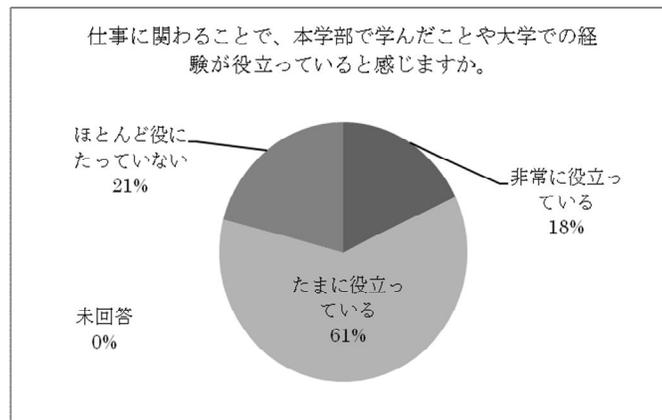
さらに平成 19 年度には調査対象を拡大して、卒業（修了）生及び就職先企業を対象としたアンケート調査を実施した（資料 5-2-2，5-2-3）。

その結果、卒業（修了）生は、在学中に専門的な知識・技術のほか、物事を考える多角的な視点やコミュニケーション能力などを身につけていること、さらに就職後は、ほぼ 80%の卒業（修了）生が、本短大部での経験が職場で仕事を遂行してゆく上で役にたっていると感じていることが分かった。

一方、採用企業側も、卒業（修了）生に対する評価として、対人関係・仕事の協調性、コミュニケーション能力、責任感・粘り強さ・誠実性などのいずれの調査項目でも半数以上の企業が 5 段階評価で 4 以上の高い評価をしている。

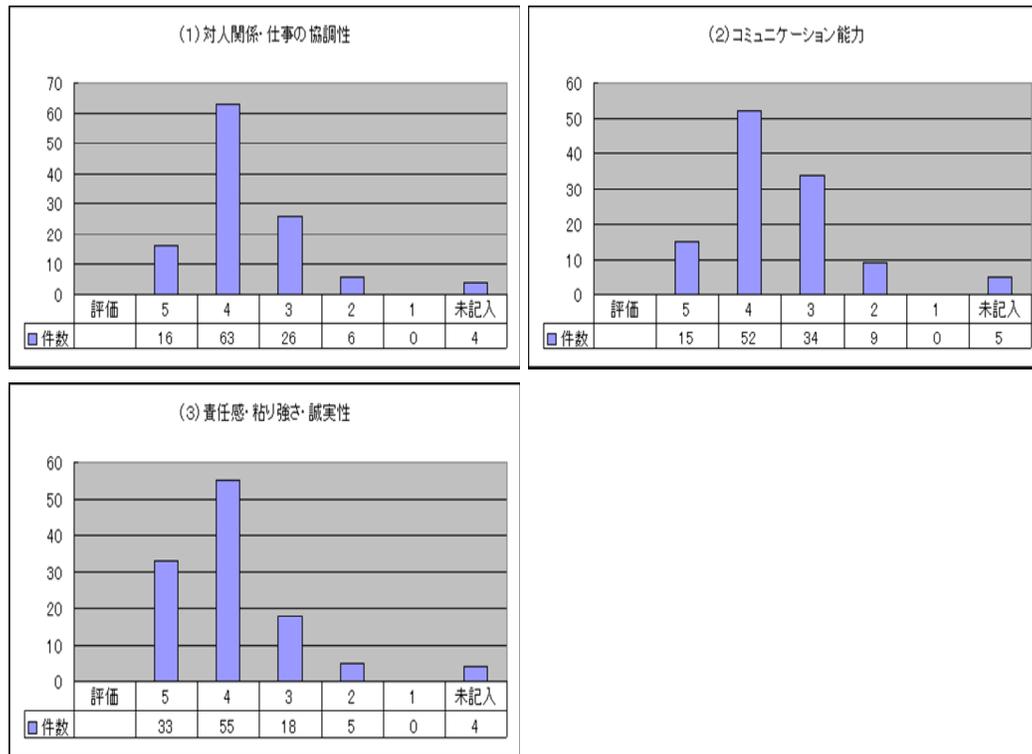
これらのアンケート結果から、本短大部では、学生側及び企業側の視点から見て、期待される「人材の輩出」を効果的に行っていると判断できる。

資料 5-2-2 卒業（修了）生へのアンケート調査結果



(出典：卒業（修了）生へのアンケート調査報告書（平成 19 年 9 月）)

資料 5-2-3 就職先企業へのアンケート調査結果 (評価は5段階評価で、5が最もよい)



(出典：卒業（修了）生へのアンケート調査報告書（平成19年9月）)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本短大部では実務経験を持つ教員を数多く擁していることから、職業に関する専門の知識と技術を学生に分かりやすく教授し、高い進学・就職率を達成・維持している。その就職先は主に北陸地域であり、地域の関係業界への人材供給機能を果たしている（別添資料4）。

また、卒業（修了）生に対するアンケート調査結果が示すように、本短大部の教育で得た専門知識やビジネスリテラシーのほか、物事を考える多角的な視点やコミュニケーション能力などが就業に役立っている（資料5-2-2）。

一方、就職先企業へのアンケート調査結果が示すように、本短大部の卒業（修了）生は、高い協調性、コミュニケーション能力、責任感などを併せ持ち、業務への貢献度が高いとの評価が得られている（資料5-2-3）。

これらのことから、本短大部は期待される「人材の輩出」を忠実に実施しているといえ、本短大部の進路・就職の状況は期待される水準にあると判断する。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「成績評価方法の改善」(分析項目I)

(質の向上があったと判断する取組)

FDの一環として、平成16・17年度に学生による授業アンケート調査を実施した(資料1-2-2:P15-6)。この調査報告によれば、全授業の総合評価は各年度において5点満点中4点以上と常に高い満足度を維持していた。

このアンケート調査結果に対する授業担当教員の「学生に対する教員コメント」を学内ウェブ上に掲載した結果、授業に関する情報を教員が相互に共有することになり、平成16年度前期には、教員コメントの内容から成績評価方法が統一されていないことに問題があることが判明した。このため直ちに教務委員会に成績評価検討小委員会を設置し、学生の成績評価方法の改善について検討を行い、成績評価のための具体的な6つの提言を行った(資料1-2-3:P15-8)。このうち3つの提言は17年度中に直ちに実行し、特に英語教育については「英語諸科目の評価基準」をとりまとめ、平成17年度から成績評価方法を改善した(資料1-2-4:P15-8~10)。

以上のことから成績評価方法の向上があったと判断する。

②事例2「実践的・経験的な熟練教育の実施」(分析項目I)

(質の向上があったと判断する取組)

本短大部では、実践的な能力・技能の教育の一環として、学生が授業の中で地域社会と係わることができる課題設定及び履修システムを導入している。こうした教育体制が優れた教育プログラムとして評価され、平成16年には「特色GP」、「現代GP」がそれぞれ1件、平成17年においては「現代GP」が1件採択された(資料1-2-5:P15-10)。さらに、短大部の優れた教育体制は芸術文化学部にも継承されており、その結果、芸術文化学部では平成19年度現代GP「地域活性化への貢献(広域型) 出会い・試し・気づき・つなぐ芸術文化教育ーものに語る連鎖型想像授業ー」が採択された。

これら平成16~18年度まで実施された教育プログラムにより、本短大部の教育理念である「実践的、経験的な熟練教育を実施する」をより高度に継続的に具現化できた。その結果、関連授業を履修した学生の向学心の向上が認められた(資料4-2-1:P15-27)。芸術文化学部の平成19年度現代GPの採択は、本短大部から継続した教育プログラムの実践により年々教育内容が向上していることの証左とも言える。

短大部専攻科の教育目標である「我が国とりわけ地域の産業・芸術・文化の発展に積極的に貢献できる人材の育成する」に沿って、専攻別に実践的、経験的な熟練教育を行った結果、平成16~19年度にかけてデザイン・工芸分野の県内・全国レベルの作品公募展で多くの入選・入賞者を輩出した(資料4-1-3:P15-24~27)。

入選・入賞者数は、平成16年11名、17年度16名、18年度11名、19年度9名(19年度は学科生が不在の年度)であった。平成16年度に比べると、学生作品のレベル向上が入選・入賞者数の増加となって表れている。また、平成16~19年度にかけて、平成16年度以降の卒業・修了生も延べ11名が入選・入賞を果たしており、在学中に身につけた資質・能力に加えて卒業後も高いモチベーションを維持している学生が多いことが分かる。

以上のことから、実践的・経験的な熟練教育の向上があったと判断する。